

てんしゆかく しょうてんしゆかく
天守閣と小天守閣

てんしゆかく がいかん じゆう ち か かい そうとうがた
 天守閣は外観5重、地下1階の層塔型
 てんしゆ しょうてんしゆかく がいかん じゆう ち か
 天守です。小天守閣は外観2重、地下1
 かいのつくりで、ちかい てんしゆかく ちかい はし
 階のつくりで、地階は天守閣の地階と橋
 だい いしがき つうろ むす
 台という石垣の通路で結ばれています。



すみやくら
3つの隅櫓

ほんまる とうなんすみやくら せいなんすみやくら お
 本丸には東南隅櫓と西南隅櫓、御
 ふけまる せいほくすみやくら すみやくら
 深井丸には西北隅櫓の3つの隅櫓が
 げんざい こ せいほくすみやくら きよ
 現在も残っています。西北隅櫓は「清
 すやくら い じょうない
 須櫓」とも言われ、城内でただ1つの
 じゆう かい
 3重3階のつくりになっています。

とうなんすみやくら せいなんすみやくら そと
 東南隅櫓と西南隅櫓は、外から2
 じゆう み ないぶ かい じゆう
 重に見えますが、内部は3階で、2重3
 かい
 階のつくりになっています。



せいほくすみやくら じゆうようぶん かい
 西北隅櫓 (重要文化財)



とうなんすみやくら じゆうようぶん かい
 東南隅櫓 (重要文化財)



せいなんすみやくら じゆうようぶん かい
 西南隅櫓 (重要文化財)

じょうもん いちのもん にのもん
城門 (一之門と二之門)

じょうない ほんまるおとてにのもん きゆうにの
 城内には、本丸表二之門と旧二之
 まるひがしにのもん にのまるおとてにのもん
 丸東二之門、二之丸大手二之門の3
 じょうもん げんざい こ
 つの城門が現在も残っています。

じょうもん ほん いちのもん にのもん
 城門は、2つの門(一之門と二之門)
 ますがた てき しんにゆう ふせ
 で「柵形」をつくり、敵の侵入を防ぐく
 みになっていました。また、本丸表二
 ほんまるおとてに
 のもん さゆう どべい てつぽうざま
 之門の左右の土塀には「鉄砲狭間」
 じょうもん いちのもん かたちやくら
 が設けられています。一之門の形を櫓
 もん にのもん かたち こうらいもん い
 門、二之門の形を高麗門と言います。



ほんまるおとてにのもん じゆうようぶん かい
 本丸表二之門 (重要文化財)



じょうにのまるひがしにのもん じゆうようぶん かい
 旧二之丸東二之門 (重要文化財)



にのまるおとてにのもん じゆうようぶん かい
 二之丸大手二之門 (重要文化財)

てんかぶしん いしがき
天下普請の石垣

なごやじょう いしがきこうじ てんかぶしん
 名古屋城の石垣工事は天下普請と
 さいごく ほっこく だいまよう け
 して、西国・北国の大名20家によって
 おこな だいしょうてんしゆだい いしがき
 行われました。大小守台の石垣は、
 かとうきよまさ きず てんしゆ
 加藤清正によって築られました。天守
 だい
 台の石垣は弓のようにそり、いし おも
 や土の圧力がたくみに分散されていま
 つち あつりよく ぶんさん
 す。ゆがみにくく、しかも美しい形になっ
 うつく かたち
 ています。また、石垣工事に使われた
 いしがきこうじ つか
 石垣のいしは、ほか だいまよう はこ
 石垣の石には、他の大名が運んできた
 いし くべつ なまえ きこう
 石と区別するために、名前や記号など
 めじろし きざ
 の目印が刻まれています。

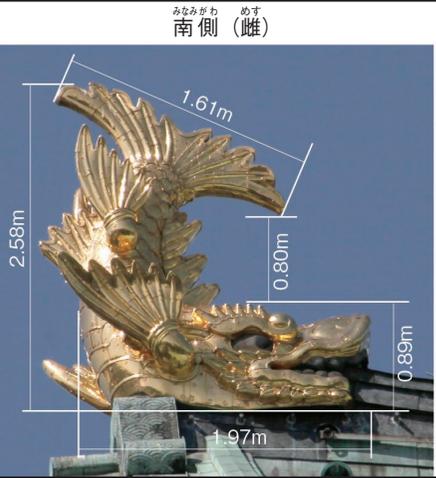


てんしゆだい いしがき
 天守台石垣

しょだい だいでめ きんしゃ
初代と2代目の金鯨

なごやじょう てんしゆ やね たてもの
 名古屋城の天守の屋根には、建物
 かさい まも れいじゆう きんしゃ の
 を火災から守る霊獣として、金鯨が載っ
 ていました。初代の金鯨に使用された
 きん じゆん ど きん こばん
 金は、純度80パーセントの金、小判に

まん りょう そうとう
 して1万7975両に相当するものでした。
 ごきんしゃち なんど いなお
 その後金鯨のうろこは何度も錆直され、
 ねんしょうわ がつ くうしゆう てんしゆ
 1945年(昭和20)5月の空襲で、天守
 とともにや お 落ちてしまいました。げんざい
 現在
 きんしゃち ねんしょうわ
 の金鯨は、1959年(昭和34)につくら
 だいでめ きんしゃち
 れた2代目の金鯨です。



だいでめ きんしゃち
 2代目の金鯨